



母の友人に、車いすで生活するお子さんをもつ方がいます。母はこの出来事をその方に話したそうです。するとその方は、

「それ、車いすあるあるなんだよ。」

と、特段驚く様子もなく言ったそうです。私には衝撃でしかなかった出来事が、車いすで生活する方にとっては日常茶飯事であると知り、再び心に冷たい風が吹いたように感じました。また、その母の友人は、

「小さいことかもしれないけれど、そういう不便さがあることを知ってくれる人が少しでも増えてくれると嬉しいな。」

とも言っていたそうです。このような不便さを日常的に感じている障害のある方たちは、真綿で首を絞められるような思いを日々感じながら生活しているのかと考えると、胸が締め付けられるような気持ちになります。「塵も積もれば山となる」ということわざがあるように、どんなに小さな不便でもそれが積もり積もれば、いずれは大きな苦痛へとつながってしまうでしょう。

私は今回このような経験をしたことで、車いすで困っている人の声を聞きたくなり、調べてみま

した。すると、やはりそのような経験をし、辛さや諦めを抱えている人は大勢いました。調べていくうちに、「専用」のエレベーターがあったり、「優先」でも混雑時はエレベーター付近に係員がいて、優先されるべき人たちが乗れるように誘導したりと、対策をとっている施設があることも分かっけてきました。

私たちは皆、忙しい生活を送っています。あと五分、十分早く家を出れば余裕をもって動けるところを、結局いつも時間に追われて、ギリギリの時間に慌ただしく家を飛び出していきます。言葉を選ばずに言えば、私たちが車いすの方に場所を譲らない大きな理由はないのだと思います。皆それぞれ、「忙しい」「早く着きたい」「譲りたいけど時間がない」「気付けけない」などの事情で、目の前の状況に正しく対処できないのではないかと思います。しかし、そのことが障害のある方たちの生活の質を著しく落としていたりすれば、大きな理由がないなどと言うことはとても許されません。時間や心に余裕（スペース）があれば、車いす一台分の余裕（スペース）を生むことは容易にできることだと思います。日常生活を送る中で、

このような場面に出くわすことはあまり多くはないかもしれないませんが、他人事としてみるのではなく、当事者として向き合う心が大切です。その心こそが、自分がとるべき行動へと導いてくれるのではないのでしょうか。私は、私を感じた、時間や心に余裕をもち生活することの大切さを忘れずに生きていきたいです。